


# 一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成28年 5月25日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第3号	質問議員	6番	石田照子 
件名	過去の震災を検証し、教訓を生かす			
要 旨				
<p>まず初めに、本年4月に発生した熊本地震で多大な被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げ、1日も早い復興を願います。</p> <p>観測史上初、同じ場所で、震度7を2回記録し、甚大な被害をもたらした熊本地震は、いまだ、先行き見えぬ不安に、多くの方々が、苦しんでいる。複数の断層帯が走る当町にとっても他人事とは思えず、新聞報道等に神経をとがらせていると、多くの課題が見えてきた。そこで、事実を検証し、過去の教訓を生かすべく、以下7点について質問する。</p> <p>1、避難所へ人が殺到しても、混乱を招かないためには、通路や、思いやりスペースを事前に確保しておくことが必要と考える。例えば、体育館の床に描かれているコートのように、床に直接通路を描いてしまう、または、壁に通路の位置を記しておくなど、職員以外の方にもわかるような目印をつけておくか、避難所の見取り図を作成し、掲示しておくべきであると考ええる。また、避難所の宿泊体験など、実践的な訓練も必要ではないか。</p> <p>2、熊本地震では、物資の供給は十分であったが、人出が足りず、物資輸送のトラックが荷卸しできずに、渋滞を引き起こした。そこで、役割分担を明確にしておき、力仕事は、中、高生、炊き出しは、小さなお子さんのいない、元気な女性など、日頃からの意識づけと計画性がいざと言うときの行動につながると思うがどうか。</p> <p>3、避難所生活では、断水や、オーバーユースなどからトイレが不衛生になり、伝染病が懸念された。そこで、消毒装置の配備や消臭剤、ウエットティッシュなどの確保、トイレ掃除の徹底など決めておく必要があるがど</p>				

うか。

4、熊本地震では、車中泊の方が多く、エコノミークラス症候群で亡くなった方や、震災関連死された方がいらした。震災時には、避難所運営に目が向きがちだが、健康面にも早くから注意をするべきと考える。そこで、健康普及員やスポーツ推進委員の方の、役割の一つに、災害時における、健康指導や、運動指導を加える。意識づけとして、毎年の防災訓練時に、全体で出来るプログラムを実践しながら行っていただいているかどうか。

5、牧島かれん衆院議員が現地に赴き、感じたことは、避難所運営には消防団員が大きな力になっていたと云う。そこで、緊急時に動いていただける組織として、各種団体を災害時協力隊と位置付け、率先して動いていただくよう依頼すべきと考えるがどうか。

6、指定外避難所への対応は、非常に難しく、把握も困難を極める。熊本地震でも、指定外避難所へ避難された方への対応は、後回しにされた。把握のためには、まず、指定外避難所専用の掲示板を用意し、場所や、人数、必要な物資などを書き込み、情報を一元化したらどうか。

7、被害を最小にするには、住宅への耐震改修が必要不可欠である。近隣市町の中では、耐震改修に対する補助制度を設けていないのは、真鶴町と山北町だけである。財政的な厳しさもあるが、耐震改修の普及率を上げるには補助制度は必要であると思う。そこで、普及率を上げるための考えを問う。

以上